

# ひょうたんいけ

桜台小 学校だより  
令和5年3月22日  
第66号



今週末で令和4年度が終了します。この1年間で、子どもたちは勉強や運動に励み、地域の皆様の温かさやぬくもりにもふれ、心も身体も大きく成長したことと思います。20日(月)には6年生全員が出席し、厳かで感動的な卒業式を挙行することができました。6年生が卒業し、これからは5年生が最上級学年となります。新年度のスタートに向け、自覚と責任を持ってしっかりと桜台小学校をリードしていってほしいと思います。

※学校ホームページ「桜台っ子ニュース」では、日々の学校の様子をカラーで紹介しています。



## 「第46回卒業証書授与式」を挙

20日(月)、桜台小学校「第46回卒業証書授与式」を行いました。コロナ禍で規模縮小と時間短縮を図るため、出席者は卒業生とその保護者、教職員、来賓(地域選出市議会議員、地域連合自治会長(CS委員長)、教育委員会代表、PTA会長)に制限をさせていただきました。

卒業証書授与では、担任が名前を読み上げると、「はい」とはっきりとした返事をし、一人ひとりが順番に壇上へ上がり、自分の将来に向けた夢やこれまでのお世話になった方々への感謝の気持ちを語りました。その後私のもとへと進み、ゆったりとした所作で卒業証書を受け取り、タイミングを合わせて礼を交わしました。「旅立ちの言葉」では、代表者が堂々と卒業の気持ちを語りました。終始おごそかな雰囲気の中で授与式が進みました。

私からは、卒業生へのはなむけの言葉として次の言葉を送りました。<校長が話した概要です>

私には、大好きなCMがあります。CMの中の主人公の少年はラグビーが大好きで、友だちといつもラグビーを楽しんでいました。しかし、体格の大きな友だちには「まだまだだな」と、いつもあしらわれていました。ある日、ラグビーを終え、家に帰ると、井戸から水を汲み、ツボに注ごうとした母親がつかうようにしている姿を目撃します。次の日から、母親の代わりに井戸から水を汲んでくるのが主人公の少年の日課となりました。ラグビーの練習に顔を出さなくなった主人公を、ラグビーなかまも心配しています。そんなある日、落ち込んだ様子で、井戸へ水くみに行こうとする主人公の前に、ラグビーなかまの4人が現れます。そのなかまは、主人公の家に着くと水瓶を抱え、水くみの仕事を手伝い、井戸のそばで主人公の少年はうれし涙を流します。

時は流れ、主人公の少年は水道をひく会社に勤めるようになり、水道の通っていない村にきれいな飲み水を行き渡らせるようになります。一方、体格の大きな友だちはラグビー選手となり、大人に成長した主人公は、試合中倒れた友だちに向かってきれいなバケツの水をぶっかけ、「まだまだだな」と語りかけます。そのCMは、人と人とのつながりの真の姿や誰かのために人が行動することの素晴らしさを教えてくれているようで、今でも私の心に強く響き、その時のシーンが印象に残っています。

同じ時代を同じ場所で生きることは、奇跡に近いことなのかもしれません。このCMのように、人との出会いがさらに良いものになるよう、中学生になってもそれぞれが自分を磨く努力を続け、なかまを大切にし、お互いに力を合わせながら、また、新しい一歩を歩いていってほしいと思います。

卒業式に出席された皆様の温かい拍手に送られて、卒業生はこの桜台小学校を巣立っていきました。

## 桜台小見守り会・桜小子どもをまもるまち 意見交換会より

18日(土)、桜地区市民センターにおいて「桜台小学校見守り会」と「桜小学校子どもをまもるまち」による意見交換会が行われました。本校からは5年生の子どもたち4名が参加をし、学校を代表して、お世話になっている地域の皆様に感謝の気持ちを伝えました。各学級で、感謝の気持ちを一人ひとりが寄せ書きにしたものを、今回お渡ししました。「班長さんに率先してあいさつの声を出してほしい」「ポケットに手を入れている子は出してほしい」「道の段差に気をつけてほしい」といった話も出されました。「桜台小学校見守り会」の皆様には、雨の日も風の日も、寒い日も暑い日も、毎日欠かさず子どもたちの登下校を見守ってくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。(文責 北住 昌文)

